



Chapter3

頼んだり、相談したりする



Section1 : 理由や目的を説明して頼むことができる

◆チャレンジ

◇絵を見て、どのような日本語を使って頼めばいいか、ペアで話させます。1～2組のペアに発表させてもよいです。「理由や目的を説明して頼むことができる」という学習目標を確認します。

◇友だちに頼めること、頼まれて自分がやってあげられることについて、個人、ペア、全体のいずれかで考えさせます。手を挙げさせて集計してもいいでしょう。また、理由などを話させると、短い意見交換ができます。

◆会話

場面：友人の部屋 スピーチスタイル：普通体 活動：借りる・お勧めを聞く・提案する
登場人物：リッキー（アメリカ出身）ひろし（神奈川県出身）

リッキーがデートのために、ひろしに車を借りる場面です。リッキーは初めてのデートなので、経験豊富なひろしにアドバイスをもらおうとしますが、想像が先にたって、きちんとひろしの言うことを聞いていません。デートは湘南へのドライブに決まりましたが、ひろしは湘南に行く際の注意点も話しています。最後はリッキーのジョークで終わります。

◆Pick Up

ここでは、くだけた形の「頼む」表現のさまざまなバリエーションを扱っています。

【各表現の注意点や指導のヒント】

①ちょっと頼みたいことがあるんだけど……。

頼む際に会話を始める「切り出し」の表現です。「だけど」は相手の返答を待つ姿勢で、余韻



を持たせた発音をするように学生に指示してください。

②車貸してもらえないかな。

「貸してもらえない？」のように直接的な依頼の表現ではなく、を「貸してもらえないかな。」と「かな」をつけることで、「どうか、大丈夫かな」という気持ちがより一層込められます。したがって、質問のように文末を上げずに、モノローグ風に発音するのがポイントです。ここでは「車を」ではなく、「を」を省略しています。会話では頻りに直接目的語を指す「を」が省かれます。これは、目的語と動詞の結びつきが高いという理由が考えられます。それより結びつきが弱い間接目的語の「に」は一般的に省略されません。省略すると、片言の日本語の印象を与える可能性があります（例 これ、あなた、あげる）。助詞の省略については、実際の会話の中で学ぶ学生も多いですが、このレベルは目的語の「を」の省略にとどめておいた方が、混乱が少ないと思われます。

③どっかいとこ、教えてほしいんだけど。

相手に依頼する言い方です。文末が「けど」で終わっていますが、これは相手の返答を待つサインと考えてください。「～してほしいけど（大丈夫かな？ やってもらえるかな？）」という意味が含まれています。「どっかいとこ」は、「どこかいところ」の音変化です。

④彼女の行きたいとこ、聞いた方がいいと思うけど。

「～た方がいいと思うけど」の形で相手にアドバイスをする言い方です。文末に「けど」がついているのは、「最終的にあなた（聞き手）が決めるのがいいけれど、私からはこう提案したい」とやや控えめな気持ちが表れているためです。強く勧めたいときは、「～た方がいいよ」を使うこともできます。

⑤教えてくれない？

「～てくれない？」は、「自分のためにしてもらえないか」という気持ちを表します。「教えて」と「教えてくれない？」では伝わり方が違うこともコメントするといいいでしょう。また「くれない」の「れ」は、くだけた形で「ん」に変わることがあります。

◆表現練習

I. 簡単な依頼表現、切り出しと依頼

一つの会話の中に、「もらえないかな」「もらえる？」「もらえない？」の三つの依頼表現が含まれています。普通体の会話ですが、「もらえる？」→「もらえない？」→「もらえないかな」の順でより丁寧になります。まず最初に、みどりは荷物を運ぶという負担度がやや高い依頼をする際に丁寧な表現を使っています。「もらえる？」「もらえない？」が疑問文に聞こえるように、文末を十分に上げて発音することに注意させてください。会話の切り出しから、「依頼する」「依頼を受ける」「礼を言う」という依頼の会話の流れがシンプルな形で入っているので、置き換え部分以外は暗記して会話練習をするとより効果的です。

II. 親しい人への依頼

入れ換え部分の文がやや長いものがあるので、あらかじめ、て形に変換して（必要ならメモを



して) から練習してもよいでしょう。「～してほしい」のは話し手ですが、行為をするのは聞き手(頼まれた人)であることを確認してください。「～してほしいんだけど…」は、この後に「やってくれないかな」という気持ち(の文)が省略されているので、余韻を残した発音をするようにアドバイスしてください。最後のももこの台詞は落ちになっています。実際の会話練習では、「そんなことで人に頼むの?」という例が出て(例 今、お菓子食べて忙しいの! / 今、眠くてこれから昼寝するから / 今、何もしたくないんだよ) 学生の間で盛り上がることが多い会話練習です。

Ⅲ. 控え目にアドバイスする

お勧めを聞く、助言をするという機能が含まれています。アメリの台詞「わかんなくて。」は、て形で終わる形、いわゆる連用中止(中途終了)です。会話では頻繁に使われますが、この場合、後半を相手にくみ取ってもらおう会話ストラテジーの一つです。みどりの二つ目の台詞「うーん」は実際の発音を聞かないとなかなかうまくできないようですので、教師がまず例を見せてください。実際には「ん——」と聞こえる(発音する)と自然な発話になるでしょう。文末に「?」がついている文は文末を十分に上げるように気をつけさせてください。特に、みどりの2番めの台詞「何?」は、急激に「に」だけが上がったり、「に」に強勢(強さアクセント)を置いたりするなど、けんか腰に聞こえる発音になる学生がいます。会話でよく使う表現なので、十分に気をつけてさせてください。Chapter2のSection1の「アクセントの有無による文末イントネーション例」を参考にしてください。「なに?」は頭高型で、「に」でまず下がります。それからゆるやかに上がります。「なに?」と「に」を少し長めに「い」で上げるとうまくいきます。

「定番」の言葉の説明をした後で、両親へのプレゼント・結婚祝い・卒業祝いなどの定番について話し合わせるのも面白いです。

Ⅳ. 「～てくれない?」を使った依頼

Iの依頼の会話と比べるとやや直接的な依頼表現になります。畳み込むように依頼しているところがこの会話の面白いところです。「くんない?」と音変化の形がでてきます。この会話では、いくつかのパソコン用語(「入力する」「ファイル」「保存する」)が出てきます。

他にも「検索する」「クリックする」などの用語を提示してもよいでしょう。置き換える文がやや長く、置き換えるところが四か所(A~D)あるので、モデル会話で練習したあとは、提示された入れ換え表現の意味を理解してから練習するのも一つの方法です。「餌をやる」は最近では「餌をあげる/ご飯をあげる」を使う人も多いようです。

◆文法

このSectionは文法項目が多いので、時間をどれくらい割けるか、計画を立てて指導するようにしてください。学生皆が知っていて、使い方を習得しているものであれば思い切って割愛する、あるいは解説以外の情報(以下いくつかの情報を記載していますが)を出しすぎないのも授業を間延びさせない一つの方法です。



1. 普通体かな

終助詞の使い方は学生にとって難しいものの一つです。「かな」は比較的理解が早いですが、文の終わりについて、「どうですか」「どうだろう」というやや自信のない気持ちや自問自答している気持ちが表せます。(例 帰ろうかな、帰るのよそうかな。) 普通体のうち、「Nだ」は「N だ」、「な A だ」は「な A だ」になります。例) 学生かな／元気かな。

2. Nの/V-る/V-ない代わり(に)

「代わりに」は大きく分けると二つ意味があります。一つは、何かをするために、通常使うものとは別のものを用いたり、通常の方法ではなく、別のやり方で行ったりする場合です。一般に通常使うものがなかったり、通常の方法ができないときに使うことが多いです。(例 醤油の代わりに、ソースで食べる／橋を渡る代わりに、船で行った) もう一つは、あるもの、あることと交換(条件)にという意味です。(例 引っ越しを手伝う代わりに、昼ごはんをおごってもらった) この場合は「代わりに」の前には動詞を用いることが多いです。学生の母語ではそれぞれ訳が異なる場合もあるので、分けて説明するとわかりやすいです。

3. V-てよ

終助詞は使い方を間違えると不自然になったり、相手に不愉快な気持ちを与えることもあります。使わないと片言っばいイメージを与えたり、微妙なニュアンスを伝えることができなかったりします。規則を学んだ上で、日本語母語話者の発話を聞いて、身につけることが大切です。「よ」は新情報の提供のほかに、念押しにも使います。例えば、「満タンにしといてよ」は「満タンにしといてね」という言い方もできますが、「よ」の方が強い念押しに聞こえます。「知らない人」や「目上の人」には、念押しの「よ」を使わないことが多いです。使うときは話し手が「強い念押し」を使っても大丈夫な相手かななどにも気をつけるようにしてください。

4. 疑問詞+V-たらいいかわかんなくて

道を聞いたり、やり方を尋ねたりするときなどに役に立つ表現です。ここでは「どこへ」ですが、「いつ」「どこで」「何を」「どう」など疑問詞を入れて後半を考えさせると効果的な練習と理解の確認ができます。また、「(高速バスに乗りたい) んですけど、どこへ行ったらいいかわかんなくて。」のような文の前件、() の部分を考えさせると、より実践的な表現を学んでいる意識が生まれます。

5. 音の変化

ここでは二つの音変化を扱います。音変化には変化する理由(音声的な環境)がありますが、学生には、「会話やくだけた発話ではこの場合こう変化することがある」と説明するだけで十分です。ただ、常に「らりるれのに」が「ん」に変化するわけではないので、質問が出たときは、「られるれのに」の後ろの音が「N(鼻音)」の場合に変化することが多いことを説明するといいでしょう。また、「っ」に変化する促音化については、無声音に挟まれた母音が脱落して促音化することがあります。同じ母音の場合(例 あたたかい→あったかい)が多いですが、そうでない場合(例 しょうがくきん→しょうがつきん)もあります。こちらは、ローマ字



で、dokoka, atataikai と板書し、太字の **o** や **a** を削除する印を入れます。これで学生は問題なく理解できます。

6. **N/普通体**なら、**N/普通体+の**が**普通体** (な) んじゃない?

相手の発話を受けて、それについて何かをアドバイスしたり、感想を述べたりする際の表現です

例) A「沖縄に行こうと思っているんだけど……。B (沖縄に行くということを受けて)「沖縄 (に行く) なら、10月に行くのが、(那覇祭りとか楽しめて) いいんじゃない?」

「~じゃない」の「~」部分には「いいんじゃない?」と「いい」が使われることが多いです。

「~んじゃない?」も文末イントネーションにも気をつけさせてください。

前件の普通体のうち、「なAだ」は「なA (な)」、後件の後ろの文は「なAな」になります。

7. **N1**みたいな**N2**

「~みたいな」はな形容詞と同じ活用をします。動詞を修飾する場合は、「~みたいに」です。「~のような」のくだけた形ですが、「ような」には「の」がありますが、「みたいな」にはないことに注意させてください。

8. **V-る/V-ない**ことにする

決めたことを言うときに使います。これに関して、「~ことにした」と「~ことになった」との違いは何かという質問が出ます。「~ことにした」は自分が決めたことを表し、「~ことになった」は自分だけでなく、他の人と話し合った結果、そう決まった (そのため変更するのが難しい) という状況を表す、と説明するといいいでしょう。「~ことになっている」の形は、「~という規則です」という意味になります。「~ことになる」は、「結果がそうなる」という意味になります。

9. **V-る/V-ない**ことがある

通常でないけれど、ときどきそういう例があるというときに使います。学生に「朝ごはんを食べずに授業に来ることがありますか?」など個人の習慣や日常について質問してみるのもいいでしょう。

10. **V-てはだめ**⇒**V-ちゃ/じゃだめ**

「~してはいけない」という禁止の意味ですが、「ては」が音の変化を起こして、「ちゃ/じゃ」になります。「食べてはだめ⇒食べちゃだめ」「飲んでではだめ⇒飲んじゃだめ」のように、動詞を提示して音変化させる練習をするとよいでしょう。

◆文法練習

この Section の文法練習は、一つの会話練習に複数の学習項目が含まれています。

1. 【代わりに】【よ】

全体がジョークの会話になっています。会話の「代わりに」には「代替」の意味と「交換条件」の意味の両方が使われています。③の自分で考える問題では、学生が意味を理解し、意味が通じれば、どちらの意味で使っても問題ありません。



II. 【疑問詞～たらいいか】【なら】

この会話は、ひろしの他力本願をテーマにしたジョークになっています。「～たら？」はくだけた提案の形です。「わかんなくて」の後は「困っている」などが省略されています。

III. 【ことがある】

この会話は、風太郎のぼんやりぶりをテーマにしたジョークになっています。

「あるよね」の「よね」のイントネーション、教師が手本を見せるといいでしょう。

「よ」で下がり「ね」で少し上がる感じです。ひろしの「あるある！」は、Chapter2の表現練習にもありましたが、言葉を二つ重ねることで強調を表しています。動詞が使われることが多いですが、形容詞「怖い怖い」などもあります。最後の「それはない！」は落ちになっています。

IV. 【ことにする】【しちゃだめ】

この会話は、リッキーが申し出をするも、自分のやり方以外は認めない由実の「ダメだし」が続くジョークの会話になっています。「何もしないことにするよ」「ありがとう」が落ちになっています。動詞はて形にした上に、音変化が必要ですが、ほとんどが動詞だけの一語なので、準備なく始めても大きな問題はないでしょう。

◆タスク

【話しましょう】

I. 「頼む、頼みを受け入れる、断るロールプレイです。まず、「会話のヒント」を見て流れを把握します。次に、ロールカードをよく読ませてから、会話を始めるとよいでしょう。二人は友だちという設定なので、普通体で話させます。頼むという行為は、人によって頼む側も精神的な負担を感じることが多いです。特に相手の行動を変えてもらったり、苦情があって頼んだりする場合はより負担度が高くなります。その場合、直接的な依頼表現ではなく間接的な表現が使われます。実際に頼む内容が学生によって負担度が高いかどうかで、使われる表現（「てくれない？」「てほしいんだけど」「てもらえないかな」など）を選択するようにアドバイスすると、実践的な練習になります。頼みを聞く側も同様に、依頼に関してどう感じるかを考えて反応を表すと、より真正性（本当らしさ）が増します。エピソード1とエピソード2はどちらが頼みやすいか、依頼を受け入れやすいかについて、話し合うのも面白いと思います。同じペアで役割を変えて、再度練習することもできますし、ペアを変えて、違う役割で練習することもできます。教師は練習中に教室を回りFBしてください。特に切り出しや、お礼を忘れがちなので、気をつけてるよう促してください。評価を行う際には、それぞれの表現のみでなく、全体としての流れ、頼む会話全体で欠けているものはないかななどにも注意を払うといいでしょう。最後に全体で何組かのペアに発表させて、FBやアドバイスをするのも学習内容を意識化する効果があります。

II. アドバイスをするロールプレイです。「会話のヒント」を参考にして、ペアで会話をを行います。表現練習Ⅲがモデルになっています。クラス全体で何組かのペアに発表させてくださ



い。

【読みましょう】

ひろしからリッキーへのメールを読む活動です。「会話」でリッキーがデートをすることになりましたが、その続編になります。親しい友人へのメールというところで、「～したりして（もしかしたら、～したのでは？）」「僕のおかげ」「忘れるなよ」「バタバタして（いろいろ忙しくて）」「忘れちゃった」など多くの口語表現が用いられています。

【書きましょう】

一緒にコンサートに行ってほしいことを伝えるメールですが、依頼内容と理由の他に、日時や場所、コンサートの内容もメールに盛り込むことを忘れないようにアドバイスしてください。

◆聞き取り練習

依頼の会話を聞いて、依頼の内容、結果を聞き取る練習です。ここの会話は役に立つ表現などが多いので、スクリプトを活用しながら聞き取り練習をするもの一つの方法です。始める際に、指示文を先生が読み上げ、やることを指示してください。一気に通して問題を解かせ、まとめて解説することも、一問ずつ音声を止めて解かせて、解説することもできます。音声を聞きながら、空欄を埋められるようにしていますが、聞き取りが弱かったり、書くのが遅かったりする学生がいる場合は、問題の音声が終わったところで一度止めて、学生に書く時間を与えるといいでしょう。





Section2 : 丁寧に頼むことができる

◆チャレンジ

◇絵を見てどのような日本語を使って頼んだらよいか、ペアで話させます。1～2組のペアに発表させてもよいです。「**丁寧に頼むことができる**」という学習目標を確認します。◇頼み方の丁寧度に関して、個人、ペア、全体のいずれかで考えさせます。なぜそう思ったのかを共有してもよいでしょう。

◆会話

場面：大学のゼミの授業 スピーチスタイル：丁寧体 活動：依頼

登場人物：紅蘭^{ホンラン} 太田先生

中国からの留学生紅蘭がゼミの教官の太田先生と話している場面です。紅蘭は敬語、太田先生も丁寧体を使っています。紅蘭は、来週の発表の資料を先生のアドバイスどおり作り直し、先生に再チェックしてもらっています。資料が改善したので、先生からほめられます。その後、先生から通訳を頼まれ、引き受けます。先生も紅蘭に引き受けてもらい、助かりました。

◆Pick Up

丁寧に頼む言い方のバリエーションを扱っています。

①お忙しいところすみません。ちょっと、お願いしたいことがあるんですが。

非常に長い一文ですが、依頼の丁寧な切り出しとしてよく使われる大変便利な表現です。「お忙しい」は丁寧語です。

②チェックしていただきたいんですが……。

「いただきたい」という話者の気持ちを表し、最後に「ですが……」をつけて、控えめな気持ちを表しているのが、発話するときも、控えめな印象を与えるように余韻を持たせたように発話するようにアドバイスしてください。

③見ていただけますか。

「～いただきたいんですが……」が自分の願望を言って依頼する、やや間接的な表現だったのに対し、こちらはもう少し直接的になります。「いただけますか」を「いただきますか」と言わないように注意を促してください。

④もう少し詳しく教えていただけませんか。

「～いただけますか」の否定の形ですが、一般的に「誘い」や「依頼」では否定形を用いた方が丁寧に聞こえます。否定形の場合も「～いただきませんか」ではなく「～いただけませんか」なので、気をつけさせてください。

⑤おかげで助かりました。

感謝の言い方です。「助かります」という表現もあり、同じように使うことができます。過去



に助けてもらったとき、引き受けてもらった直後、問題が解決した場合は「助かりました」を使うことが多いです。一方、引き受けてもらったことで、今後の手助けになるときや、もし引き受けてもらった場合を想定した場合は、「助かります」が使えます。(例 そうしていただくと助かります)

◆表現練習

I. 依頼の切り出しと依頼表現

シンプルな会話ですが、切り出し→理由と依頼→引き受け→感謝という依頼表現の流れが全て含まれています。

II. 知らない人に頼む

「いただけますか」という表現の練習です。ももこの最後の依頼と、それに対する男の人の回答は落ちになっています。

①はアンケート依頼、②は道を聞く場合に役に立つ表現です。

III. 頼んでお礼を言う

I 同様にシンプルな会話ですが、依頼表現の流れが全て含まれています。依頼表現でよく使われる「～させてもらえませんか」といった「許可」の表現が用いられています。(例 撮らせる、させる)

IV. 丁寧に頼む

買い物をする場面での会話なので、言葉は非常に丁寧ですが、ももこがやや無理な依頼をしているというジョークになっています。置き換え部分が多いので、提示された表現をまず読んでから、会話練習を始めるのも一案です。最後の入れ換え練習が落ちになります。

◆文法

1. **N通り/V-た**通り

名詞が前に来る場合は「^{どお}通り」、文が来る場合は「^{とお}通り」になることを注意させてください。

2. **N**を見ると、**N/普通体+こと**がわかる

調査発表で表やグラフなどを説明するときに役に立つ表現です。「(最後の文)を読むと、(著者が言いたいこと)がわかります」「(彼女の顔を見る)と、(彼のことが大嫌いなこと)が(よく/はっきり/なんとなく)わかります」など応用がきく表現です。

次のような例文作りで、理解しているかを確認してみるのもいいでしょう。

例) ()を見ると、()がわかります。

普通体のうち、「Nだ」は「Nだと/Nだということ」、「なAだ」は「なAな」になります。

3. **N/V-る**にともなって

「前件が変化したら、同時に後件も変化する」という意味です。

後件は、変化動詞(～になる/～ていく/～てくる)を用いると自然な文が作れます。



例) 温暖化にともなって、海水面が上昇してきた。

「() にもなって、() てきた／ていく」などの文作りをして理解度を把握することができます。

4. **Nの/V-るために**

目的を表す表現ですが、どのような動詞と一緒に使われるか確認させましょう。また使えない動詞の例を確認するのもよいでしょう。

例) ない形×食べないために／可能形—できるために／自動詞・無意志動詞—電気がつくために など。

5. 「れる、られる」の尊敬語

「れる・られる」の尊敬語を学習します。形は受身形と同じです。また第二グループは可能形とも形が同じですが、主語や助詞、意味、文脈に注目して違いを把握させます。

G1 **先生**は本を**読**まれました (尊敬)

先生は**だれかに**日記を**読**まれました (受身)

G2 **先生**は納豆を**食**べられました (尊敬)

先生は**だれかに** (先生の) 納豆を**食**べられました (受身)

先生は納豆**が**食べられます (可能)

G3 **先生**はチェックを**さ**れました (尊敬)

先生は**だれかに**チェックを**さ**れました (受身)

6. 許可の使役

使役の形を使って許可を求める練習です。よく使う表現が、「～(さ) てください」です。まず表を見て、使役の形を正しく覚えているか確認させてください。また助詞についても併せて確認してください。

他動詞 私**に**その仕事を**やら**せてください

自動詞 私を**そこ**に (へ) 行か**せ**てください **ここ**で先生を**待**たせてください

◆文法練習

I. 【を見ると～がわかる】

グラフを見せながら説明するモノローグになっています。これまで同様ペアで練習します。①②の練習のあと、③は全体で発表させてもよいでしょう。簡単な調査の結果発表として役に立つ表現を用いています。

II. 【にともなって】

ニュースキャスターによるモノローグになっています。これまで同様ペアで練習します。モデルと④の語彙が天気に関する語彙になっています。そのほかに関連語彙として、大雪、強風、嵐や災害に関する語彙、地震、揺れ、津波、避難などの語彙を導入するのもよいでしょう。

III. 【ために】



哲学的な内容の会話になっています。入れ換え練習のみなので、自分自身の日本語に対する姿勢や考えを述べる練習になります。「～ために勉強しています」の一文だけを取り上げて、クラスメート全員に聞いてみるのも一案です。

IV. 【尊敬語】

「れる・られる」の尊敬語の練習です。最後の記者の台詞「さすが、～ですね。」を読むまで、インタビューされている人物がどんな職業なのかわかりません。真正性を高めるためには、最初にペアの相手と有名人の職業を設定してから、練習させるといいでしょう。例えば、アメリカ大統領にインタビューする、レディー・ガガにインタビューするなどが考えられます。

◆タスク

【話しましょう】

I. ペアになり、役割を決めて、エピソードを読ませて、「会話のヒント」を参考に会話をさせます。エピソード1か2を選ばせて練習させても構いません。エピソード2は苦情を言って頼むという負担度が高い依頼が入っています。全体を通して丁寧体で話します。エピソード2のホテルの従業員は、敬語も使うように促してください。

IIは、Iのエピソード2と同様、場面が旅行先になっています。「会話のヒント」を参考にし、相手に失礼ならず、自分の要求がきちんと伝わる依頼の会話ができるようにアドバイスしてください。

【読みましょう】

トーンが先生に書いたメールを読む練習です。先生が持っている本を貸してほしいと依頼する内容です。敬語が使われているので意識させてください。

【書きましょう】

書くべき情報を落とさないように、文に下線を引かせてから書かせるといいでしょう。例えば、「1年前に日本留学」「今年大学を卒業」「大学院」「成績証明書」などです。

◆聞き取り練習

丁寧な依頼の会話を聞いて、依頼の内容と結果を聞き取る練習です。いずれの会話も役に立つ表現が多く含まれているので、スクリプトを活用しながら聞き取り練習をするもの一つの方法です。音声には指示文が収録されていないので、音声を聞き始める際に、指示文を教師が読み上げ、やることを指示してください。) 一気に通して、問題を解かせ、まとめて解説することも、一問ずつ音声を止めて、解かせて解説することもできます。音声を聞きながら、空欄を埋められるようにしていますが、「聞き取りが弱い」「書くのが遅い」学生がいる場合は、問題の音声が終わったところで一度止めて、学生に書く時間を与えるといいでしょう。